

平成 2 2 年度 学校評価結果

領域	自 己 評 価 の 結 果 (達成状況，結果の分析)	改 善 方 策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学 校 関 係 者 評 価 の 結 果	学 校 評 価 の ま と め															
学 校 経 営	・ 情報提供については発信回数だけではなく，確実に伝わる工夫が必要である。 ・ 保護者・地域による学校評価の前提として，学校の現状をできるだけ見ていただく必要がある。 ・ 地域・保護者と連携した活動については，社会奉仕の精神を養う活動の一環として推進したい。	・ メール配信システム加入保護者を増加させる。(現在約 5 0 %加入) ・ 授業公開日等の設定によりできるだけ多くの保護者に来校いただく。 ・ H P，保護者宛文書等，多様な方法で情報発信する。	・ 流山の特徴は自治会活動がしっかりしていることである。祭に参加するなど，生徒が自治会と関わりが持てるような取組をしてみてもどうか。 ・ 保護者は授業の様子を知らない。子供から聞く話と実際の状況とのギャップを理解していない。	・ 保護者に対して，本校の教育活動について，授業公開等でさらに広く情報発信する機会を設ける。 ・ 地域との関わりについて，現在よりもさらに別の形の連携方法も模索する。															
学 習 指 導	漢字検定合格者数（3 年生） <table><tr><th>級</th><th>昨年度</th><th>今年度 (2 学期末)</th></tr><tr><td>2 級</td><td>6 名</td><td>2 名</td></tr><tr><td>準 2 級</td><td>1 2 名</td><td>1 2 名</td></tr><tr><td>3 級</td><td>7 5 名</td><td>4 2 名</td></tr><tr><td>達成率</td><td>5 5 . 4 %</td><td>3 0 . 6 %</td></tr></table> 各級の合格者数を比較すると，3 級合格者数の減少が全体の達成率低下の理由であると考えられる。	級	昨年度	今年度 (2 学期末)	2 級	6 名	2 名	準 2 級	1 2 名	1 2 名	3 級	7 5 名	4 2 名	達成率	5 5 . 4 %	3 0 . 6 %	・ 本校の漢字力アップに関する取組は，今年で4 年目となる。目標級（3 級）以上への合格達成率を高めるためには，年 6 回の対策テストや模擬試験に取り組む意欲の向上を図るとともに，国語以外の各教科においても，漢字力アップを意識した授業を更に充実していく必要があると考えられる。 ・ 今年度 3 学年の目標級の達成率低下の原因として，対策テストでの不合格者が多く，またその再試験の合格率が例年に比べて低い事が報告されている。今後，対策テストへの取組の重要性を生徒に再認識してもらう為の指導と，漢字学習に対する更なる意欲と興味を喚起する必要があると考えられる。 ・ 準 2 級以上の取得者には，級に応じて 2 単位までの単位取得を認定しているので，この制度も生徒の漢字学習意欲喚起のために，今後も広く周知していく必要があると考えられる。	・ 生徒アンケートの中で，積極的に授業に参加していると答えた生徒が 7 3 %，校則を守ろうとしていると答えた生徒が 7 6 %。この数字が授業態度に出ている。 ・ 教師が生徒の課題をきちんと把握できているので，生徒が真剣な授業態度になっている。	・ 基本的な生活態度の指導や，生徒一人一人へのきめ細やかな指導を継続し，さらに充実した授業を目指す。 ・ 漢字力アップを意識づけ，漢字検定合格達成率向上のための方策改善を模索する。
級	昨年度	今年度 (2 学期末)																	
2 級	6 名	2 名																	
準 2 級	1 2 名	1 2 名																	
3 級	7 5 名	4 2 名																	
達成率	5 5 . 4 %	3 0 . 6 %																	
生 徒 指 導	遅刻・欠席数合計（2 学期末） <table><tr><th></th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>遅刻</td><td>1 4 1 1</td><td>1 5 0 5</td></tr><tr><td>欠席</td><td>1 8 4 3</td><td>2 2 4 2</td></tr></table> 平成 2 1 年度から比較すると 1 クラス増をふまえると，遅刻率は昨年と同程度である。欠席率は増加しており，これは長欠生徒のためだと考えられる。		昨年度	今年度	遅刻	1 4 1 1	1 5 0 5	欠席	1 8 4 3	2 2 4 2	・ 服装の乱れや公共の場でのマナー違反が目につく。家庭や地域の方々と連携し基本的生活習慣を身につけさせ，将来の進学や就職などへつなげていけるように今後も毅然と生活指導を行っていく必要がある。 ・ 今年度未達成となった欠席・遅刻の減少も継続かつ強化して指導を行い，来年度は減少させることも課題としたい。そのためにも，教員間の指導方法に差異がないように教員一同が足並みを揃え指導にあたることが重要だと考える。	・ 生徒指導が厳しすぎるという保護者の意見があるが，厳しすぎるということはない。親は，自分の子供が，社会に出た時にどうなるのか考えた方がいい。 ・ 生徒アンケートで友人との関係がうまくいっていると答えた生徒が多い。学校生活が充実している証拠である。 ・ 周りの学校が自由だから，厳しすぎるという意見が出るのかもしれない。	・ 現行の指導体制は継続しつつ，より組織的な指導が実現できるような方策を推進する。						
	昨年度	今年度																	
遅刻	1 4 1 1	1 5 0 5																	
欠席	1 8 4 3	2 2 4 2																	

領域	自 己 評 価 の 結 果 (達成状況，結果の分析)	改 善 方 策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学 校 関 係 者 評 価 の 結 果	学 校 評 価 の ま と め												
健康・安全教育	- 本年度は感染症の流行が見られず，感染した生徒もほとんどいなかった。 - 健康や安全性に対する保護者・生徒・職員の意識は高い。 - 学校事故（スポーツ振興センター給付金手続き件数） 20年度：35件 21年度：19件 本年度：34件	- 今後も様々な感染症に対し，個々の感染症に対応した予防策を徹底する。 - 校内施設・設備の老朽化によって，危険箇所が増大していると思われるので，これからも調査を日常的に実施する体制を作る必要がある。 - 古くなった椅子の破損などは毎年発生しているので，買い換えなどの抜本対策を検討する必要がある。 - 生徒同士がふざけることによって起こる事故の防止対策を実施する。	健康や安全に限らず，学力向上，進路実現など，生徒の活動を支えているのは基本的生活習慣である。家庭や学校のルールに従い，規則正しい生活を送ることが，感染症，事故等の防止にもつながる。このことは，家庭・地域と連携しながら繰り返し生徒に言って聞かせる必要がある。	現行の生徒指導を堅持することにより，生徒が健康で安全な学校生活が送れるよう継続して指導する。												
キャリア教育	12月までの進路状況 (在籍者数に対する割合) <table><tr><td></td><td>昨年度</td><td>今年度</td></tr><tr><td>進学</td><td>55.6%</td><td>44.8%</td></tr><tr><td>就職</td><td>24.9%</td><td>24.0%</td></tr><tr><td>未定</td><td>19.5%</td><td>31.1%</td></tr></table> 学校斡旋を希望する生徒においては，約8割の内定率であった。現在活動中の生徒も数名いる。進学も希望者のほとんどが合格している。その中で進路を決められない生徒，就職試験に落ちてあきらめて進路変更した生徒など，昨年に比べ未定の生徒の数が多い。キャリア教育を通じて色々な角度から対策が求められている。		昨年度	今年度	進学	55.6%	44.8%	就職	24.9%	24.0%	未定	19.5%	31.1%	現行の進路指導体制は維持して，それぞれの希望がかなえられるようにしていきたい。進路未定者を減らすべく，1，2年生での対策を検討していく必要がある。	- 教師の授業での説明が多すぎる。生徒にコミュニケーション能力を身につけるためにはどうするのか。学び合い，考える力を養うことが大事である。 - アンケートを見ても，所詮は20～30%は否定的である。授業でもついて行けない子や，ロベたな子もいる。5～6人のグループ・ワークでロベたな子をリーダーにして，リーダーがまとめて発表するような活動を取り入れてみてはどうか。	単なる進路指導の枠にとらわれず，授業改善や特別活動での指導をとおして，コミュニケーション能力の向上を目指し，生徒の進路実現に結びつけられるように指導する。
	昨年度	今年度														
進学	55.6%	44.8%														
就職	24.9%	24.0%														
未定	19.5%	31.1%														